

山行報告

山名：丹沢山 塔ノ岳（標高 1491m） 丹沢山（標高 1567m）

日程：2020年 10月 29日～30日

目的：秋山登山

参加者：K岡、 I藤、 M本、 Y尾

コースタイム

29日：大倉登山口（12：00）～駒止茶屋（14：00）～堀山の家（14：30）～花立山荘（15：30）～塔ノ岳（16：30）

30日：塔ノ岳（6：07）～丹沢山（7：18/7：52）～塔ノ岳（9：03/9：15）～花立山荘（9：47）～駒立茶屋（11：15）～登山口（12：50）

行動時間：一日目（4H30）、二日目（6H50）、歩行距離：19.2km、標高差：1770m

29日

近鉄向島駅でMと合流。7時出発。名神、東名を走行し、秦野インターで下りる。東名走行中雄大な富士山が姿を現した。雪をかぶってない富士山を目にするのは珍しい。

登山口である大倉バス停に向かった。塔ノ岳は丹沢の山の表縦走路のハイライトとして多くの人に親しまれている山。アクセスの良さで平日にもかかわらず、駐車場にはかなりの車が止まっていた。12時ごろ到着。12時40分登山開始。多くの登山客が下山開始する時間帯。以前鹿島槍に行く予定が、翌日雨模様ということで、急遽変更。じゃ、丹沢に行こう。大倉バス停にて宿泊。翌早朝、登山開始。暑い7月中旬の登山だったことを思い出しながら歩く。昼食を済ませ歩いていると、花束を持った女性が2人。登山に花束。似つかわしくない。異様。

彼女が話し始めた。先日38歳の男性が心肺停止で亡くなられ、その方に、お花を供えに来たと話す。たぶん我々の年齢、また、この時間からの登山で、彼女達も心配してくれたのだろう。救命のこと、間に合わなかった、と話された。とにかく安全にと忠告を受けた。

駒止茶屋、堀山の家、花立山荘、木の階段を一段一段登った。整備された山道。下山してくる人は、口々に今日は、素晴らしい天気です富士山もかなり近く、雄大に見えた。今夜は、満天の星空になるでしょう、と。その言葉で、明日、目にする景色を想像しながら、期待しながら、とにかく頑張った。今回、百名山登頂を目指すIさんは丹沢未登頂ということで随分楽しみにしていた。塔ノ岳の山頂にある尊仏山荘に宿泊。16時40分到着。

遠い昔、山頂に尊仏岩という岩があった。関東大震災で岩が崩壊し、その名を尊仏山荘に留めている、という。今日の泊まりは8人。我々と後の4人は単独山行。その中に、東京の高尾山近くに在住。もとは大阪出身、学園前の手塚山学園に通っていたという彼女。13年間、中国で水墨画を勉強、帰国、現在に至る、とのこと。山を始めてまだ2年ほど。しかし、2泊3日の計画、明日は、丹沢山から蛭ヶ岳に行く。勇気ある行動だ。

夕食のカレーをいただき、少し談笑。空気冷たく、京浜地域の夜景は輝いていた。就寝。

夜空には月が、しかし星の輝きはなかった。

30日

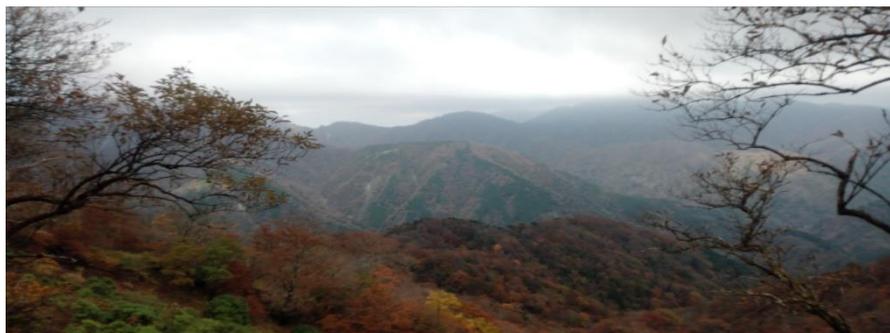
5時起床。1階で各人朝食。荷物の整理をして出発、そこへ、昨晚の彼女が下りてきた。食事の準備。見ていると、Y:「これなに？」 She:「青菜の乾燥野菜と豆腐を小さくカットし干したもの」ジプロックの中にある。S:「エノキの干したものは、だしがでるから重宝」。リンゴジュースのパックを△に畳んだものがあった。Y:「これなに？」 S:「おにぎり」「玄米と小豆を水少し大目に入れて炊く。握る。パックに並べ△に畳む。ザクの底の方に入れ、上から荷物を入れる。崩れないし、パックを開けると三角のおにぎりになってる。」なかなかのものだった。これは応用する価値あり。



青菜はさっとゆでてから天日に干す。キノコ類は、だしが出るからいい、とのことだ。

6時外が明るくなったところで、丹沢山に向かった。やっぱり、整備された木道。塔ノ岳から丹沢山までの道中、晴天なら朝日に染まる富士山が見えるはずだった。Iは百名山的一座であるバッジを購入し、我々は今来た道に戻った。途中、やっと、山食を伝授してくれた彼女とすれ違う、「またどこかで」と。あいさつを交わし別れた。

9時3分塔ノ岳に戻り、花立山荘、見晴茶屋、駒止茶屋と下山、12時50分大倉登山口に到着。天気は徐々に回復傾向にあり、太陽が当たると、燃えるような紅葉に目を奪われた。楽しい山行に終わりを告げ、4人で運転を交代しながら家路を急いだ。



以上